2022/6/4 每月第1土曜日/8,200部発行

発行/(有)テクノプラン 〒309-1612 笠間市日草場121-4 TEL 0296 (72) 7602 FAX 0296 (73) 0023 E-mail:technoplan@bz04.plala.

6/50 • 120 • 190 • 260

日曜日も予約診療しています!

診察時間

電話にて

	В	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00		0	休診	0	0	0	0
午後 4:00~ 7:00	予約 診療	0	0	0	0	0	0

- 往診いたします 往診時間:午前7:30~9:00 午後1:00~4:00
- ミング予約受付中 ご相談・ご質問などお気軽にお電話下さい。



• J. =

いしかわ動物病院 **3** 0296-**72-986 7**



SENBA ALE I 20代・30代応援キャンペーン実施中 人類の 笠間小近く おかげ様で 選切り 区回 248m Fom 248m 済 図書館 分譲地概要 ◆笠間市笠間1489◆東道路 n(公道)◆南道路/5.0m(共有持分)E区画 3/5、F区画2/5◆地目/宅地◆用途地域/第一種中高層住居専用地域◆建べい率/60%◆容積 率/200%◆電気/東京電力◆ガス/個別プロ パン◆公共上下水道(水道加入金別途)◆建物条 件付◆売主につき仲介手数料はかかりません。 ★地分報各種予約受付中 詳しくは当店へ ブランニング・資金計画は一例です。お気軽にご相談下さい。 **「新築・リフォームのご相談・プランニング・お見積り無料」**

仙波建設株式会社 20296(71)053

〒309-1611茨城県笠間市笠間136 ホームページは 仙波建設(株) 検索



皆川 末子 Sueko Minakawa

1947年茨城県水戸市生まれ。

幼少の頃より絵心を持ち、高校時代には東京へ通いデザインの勉強をする。 顔料(絵の具)の代わりに着物や帯、手ぬぐい、浴衣といった日本の古布で日 本画を描く独自の世界「布絵」の制作活動を始め、今や作品総数は250点以上 に及ぶ。ここ30年ほどの間に国内外で積極的に作品を発表。現在は個展の開 催・制作活動のほか、「布絵」の技術を後世まで残していこうと「布絵教室」も 展開している。茨城県水戸市在住。

布絵を描くひと 布絵作家 皆川 末子

皆川末子さんの作品「布絵」は、布で描いた日本画、 ご自身が編み出した唯一無二のアートです。日本画の 絵の具である顔料の代わりに着物や帯など日本の古い 布が使用されており、鮮やかな背景や髪の毛の一本さ えも布で表現されています。これまで制作した作品は 250点以上。おとぎ話や歳時記など日本の伝統的な文化 を表現したものや、国際交流によって生まれた作品、 また自らの心情を作品に込めたメッセージシリーズを 意欲的に制作しています。

幼い頃あまり喋らない子どもだったという皆川さん。 「母が心配して絵描きの先生の元で絵を習わせてくれま



旅に出よう (170cm×113cm 2015年)

した。おかげで絵を描くのは好きでしたね。高校生の時に描いた絵がデパートの宣伝部 長さんの目にとまって、イラストを描くアルバイトをしていました。その時の宣伝部長 さんの勧めで、土日は東京の学校で絵を学び、平日夜間は地元のデザイン学校で勉強す るなど、忙しい高校時代でした。|

本格的に作品を制作するのは、結婚して子どもが生まれてから。写真スタジオを営む ご主人の顧客である画商から日本画を学びました。顔料の代わりに古布を使おうと思い つき制作した当初は、周りの反応は良いものばかりではありませんでした。

「私が始めた頃は、布絵って誰もやったことがないんです。だから材料になる布がなくて、 母や祖母の着物をほどいたり手ぬぐいを使ったりしてました。色々な人から古着を分け ていただいたりもしました。ところがある日、ママ友達に『古着やボロで何かやっている』 と笑われたんです。私はボロだとは思っていなかったんですけど、初めて何かをやるの はこういう事なんだと思いました。有名な芸術家も最初はなかなか受け入れられないこ ともあった。私はそれまで友達に笑われて辛い思いをしたけれど、逆転の発想でこれが スタートなんだと思うことにしました。」

自分の作品を認めてもらえるようになるには、知識をつけなければならない。たくさ んの本を読み、地道な努力で辛い時期を乗り越えました。

その後作品は評価され、1990年に常陽銀行本店(水戸市)で初の「布絵展」を開催。以後 各地で個展を開催、マスコミにも取り上げられ、1996年には初の海外、オランダで「布 絵展」を開催しています。外国で作品について説明できるように、題材になっているお とぎ話や使われている布についての知識を身につけていきました。現地では同行した姉 が実際に着ていた着物の帯を解いて解説するなど、現地の人との交流もありました。

皆川さんの活動は、引き継がれることのない貴重な布の保存活動にも一役買っていま す。人生の先輩の魂の入った布を供養するようにお迎えし、作品に取り入れています。 一人でも多くの人に布絵を伝えるために一生懸命に描き続けていきたい。歳をとっても 素直でありたい。皆川さんはそう願っています。 聞き手: fuji

